

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や」優しい心で 「さ」さわやかな笑顔 「し」信頼関係を大切に 「い」一緒に楽しくと、独自の理念で、認知症高齢者との関わりを大切にしており、また、地域密着サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はリビングに掲示し、また、ミーティング、職員会議の中で理解しやすく伝えており、全員で共有した考えが持てるように、一つひとつの意味を確かめあっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホーム便りを定期的に発行し、分かりやすく伝わるよう記載し、家族や地域の方々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○ 老人会の集まりや婦人会の集まり等に参加し、認知症の理解やグループホームについて伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶を交わす中で、親交を深めている。また、ホームの行事に招待し、気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気づくりに努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学校の行事に招いてもらったり、夏祭りや敬老会等のホームの行事に近隣の方たちを招待し、地元の方々との交流に努めている。	○ 草抜き・溝掃除・ごみ拾い等の地域の自治会の行事や、町民運動会等に積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	運営推進会議のみに留まらず、行事等にも参加してもらえるように働きかけていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かな点まで説明している。後日、生じた質問点について回答できるよう配慮している。また、グループホームに関する内容が分かりやすく理解できるよう、文書による「グループホームQ&A」を独自に作成している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に『ご意見箱』を設置している。また、『苦情マニュアル』に利用者が発した小さなことも記録し、内容・原因の分析、今後の対応、改善点について、職員全員で話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に家族への便りを出しており、近況報告をしている。面会時には、写真を見せ、日頃の生活ぶりを話している。職員の異動がある際は、文書にて家族に知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に『ご意見箱』を設置している。また、家族懇親会を開催し、ホームに関する要望等を気軽に話し合える機会を設けている。契約時の重要事項説明書や掲示物に、第三者機関への苦情、要望窓口機関の案内を明記し、口頭により説明を行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定例会議を開催し、個々の利用者に関することや職員間の意見、提案を持ち上げて、意見が反映される機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は、利用者や家族に合わせて、柔軟な体制を取っている。家族が通院介助ができない場合は、介助の必要な時間に職員を配置したり、行事の際は多めに配置している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を崩さないよう、職員の異動は最小限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中に、内部での定期的な研修会を計画しており、さまざまなテーマでトレーニングを行っている。また、外部研修は、その都度、職員に情報として連絡し、参加する機会を作っている。参加者は研修報告書を提出し、質の向上に活かしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの事業所が他に3か所あり、常に交流する機会を持ち、情報交換をしている。また、地区の連絡協議会に参加し、特別養護老人ホーム、老人保健施設、病院、老人介護支援センター等の職員と、情報交換や事例検討会を行い、交流の場を持っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スーパーバイザーを導入しており、常に、管理者や職員の相談に応じる体制がある。また、月に1回の定例会議にて、運営者と話し合える場を持っている。年に2回、運営者との個人面談があり、直接、悩みや希望、要望を話せる機会がある。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	「自己評価表」の提出や管理者から見た職員の「人事考課表」により、個々の職員の勤務状況を把握している。それに基づき、個人面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場づくりをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時から、しっかりと状態把握に努めて面接等を行い、本人が必要とされることを導き出している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時から、家族の話に耳を傾け、不安の解消や希望、要望をしっかりと聞いている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握に努めて面接等を行い、本人と家族が必要としていることを見極めている。他のサービスを利用していた方は、事業所を訪問し、利用時の状態を聞いている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をもらっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりの状態に応じて、ストレスが極力かからないように対応している。自宅への外出・外泊を行ってもらい、いつでも自宅へ帰れることを経験してもらったこともある。また、家族の協力を得ながら、面会の回数を調整し、徐々に場に馴染める工夫も行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、入居者主体でサポートしている。過去に体験したことがある役割を、再び持ってもらい、さまざまなことを教わりながら、共に家族の一員として暮らしている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の心労や想いに耳を傾けて、安心して預けられるホームとなるよう、家族と共に何事も共感し合える関係を築いている。また、家族の意思を尊重している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係はさまざまであり、個々に応じて対応し、少しでもより良い関係が保たれるように支援している。面会時は、ゆったりと気兼ねをせず、お互いが話せる場づくりに配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を大切にできるよう、手紙や年賀状のやりとりを支援している。また、いつでも友人や親戚等の来訪を歓迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が自室で閉じこもることがないように声かけを行い、コミュニケーションをとっている。他の入居者との関わりが円滑にいくように、職員がさりげなく間に入り、良い雰囲気づくりに心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時は、このホームから離れても、いつでも相談に乗れることを話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わりを多く持ち、何を願い、希望しているのか、本人である利用者の視点に立ち、よりよく暮らしていけるケアに取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「発症経過シート」「家族状況とグループホームに期待する事」「バックグラウンド」「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態像の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の記録に一日の言動、行動、身体状況などを詳しく記入し、状態を把握している。また、急な変化があった際は、職員全体で話しあっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて、個別の介護計画を作成している。計画作成時は、チームケアのための担当者会議を開催し、意見を反映させた介護計画を立てている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて支援を行い、3か月に1回の見直しを行っている。また、状態に変化があれば直ちに会議を開き、家族や医療機関の関係者等と話し合い、計画の見直しを行ない、新たな計画を作成している。計画は職員間で共有している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に一日の言動、行動、身体状況などを詳しく記録し、「行動計画実施記録」は計画に連動した内容で、毎日のケアの実践している。また、結果を記録し、毎月評価を行うことにより、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族が面会に来た際は、宿泊できるように寝具等を用意し、ホームと家族が気兼ねなく、家族的なつきあいができるよう柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校との交流があり、学校行事の際には招待してくれる。また、ボランティアが月1回程度訪問し、手話を教えてくれ、手話ボランティアと入居者は馴染みの関係になっている。消防訓練時は、入居者も一緒に、訓練に参加している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2か月に1回、地域の介護支援専門員の連絡協議会に参加し、他のケアマネジャーや他事業所の担当者と、常に連携を持っている。また、他サービスが必要な際は、利用できる体制がある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回の「運営推進会議」で情報交換している。不明な点や質問があれば、指導してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできること、できないことをアセスメントの中で見極め、一人ひとりの力量に合わせて、食事の盛り付け、調理、配膳、片付けを一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活習慣を変えないように配慮している。タバコの習慣がある方は、職員が火の管理をし、今までの楽しみを奪ってしまわないようサポートしている。おやつを楽しみに居室内に持っている方は、賞味期限や衛生面に注意しながら支援している。	○ 個々の力量に応じて、好きなときに、好きな飲み物を飲めるように、コーナーを設けて対応していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁のある方には、排泄チェック表で排泄リズムを把握し、誘導を行っている。排泄の誘導は、さりげない言葉に置き換えて行い、羞恥心に配慮している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、個々に合わせて柔軟に対応している。体調等に考慮しながら、本人の希望を重要視している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを、入居時に家族に聞いている。メリハリのある暮らしも考慮しながら、状況に応じて、起床時間や就寝時間、休息時間は以前の生活習慣を崩さない配慮をしている。また、薬に頼ることなく、精神的安定を重要視している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、趣味や役割を再び持ってもらい、毎日に張り合いが持てるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持は、個々の力量に応じて管理している。買い物の際は、職員が傍にさりげなく立ち、本人がお金を持ち、支払う機会を作っている。一人ひとりがどこまでできるかを把握しており、力量に応じて支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの「不動の滝」は散歩コースになっており、マイナスイオンを浴びて、心身のリフレッシュの場となっている。屋外で体操をしたり、戸外へでる機会をたくさん作り、支援している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>計画をたて、利用者と相談しながら実行している。最近では喫茶店に出かけ、ケーキセットでティータイムを楽しんだ。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、電話や手紙の支援をしている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会者と利用者が気兼ねをせず、過ごせるように配慮している。おやつの際は、一緒に召し上がってもらったり、散歩に一緒に出かけたり、過ごしやすい雰囲気づくりをしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。全体の勉強会でも、身体拘束について取り上げ、内容を把握できしており、ケアにも反映されている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関には鍵をかけていない。鍵をすることにより、より不穏症状が増すことを職員全員が把握できている。不穏症状がある方は、傍に寄り添い安心できるように対応している。それでも不穏症状が強い時間帯は、安全を重視し、家族に理解を得たうえで、その時間帯のみ施錠する場合もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内に訪室する時はノックをし、入室させてもらっている。利用者にとって不快にならないように配慮しながら、常に所在を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は使用していない時は、目につかない場所に保管している。はさみには番号をつけ、使用していない時は、数量を確認できるようにしている。洗剤や消毒液は、事務所に保管し、目にふれないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	独自の『事故防止マニュアル』を作成しており、事故防止の対応を常に話し合っている。職員全員が、入居者の日々の状態や性格を理解しており、目配り、気配りにて事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間研修計画の中に入れて、定期的に学習・実習している。事業所内で行う勉強会の他に、自治体で行う講習会にも参加している。新人職員や参加できなかった職員は、管理者が個々に指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練、消火訓練を行っている。訓練には近所の方も参加してもらい、協力を得ている。また、夜間の火災を想定した訓練も勉強会で行っており、利用者が安全に避難できる方法を習得している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクは、家族に事前に話している。リスクを認識し、自由な生活空間を大切にしながら危険回避策を講じている。また、安全を重視するために、やむを得ず行う制限については、家族と話し合い、合意をもっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、血圧や体温の変化、顔色や睡眠状態、行動などに注意を払い、細かなことでも常に職員間で報告し合い、異常時には医師に速やかに報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬一覧表を作成し、薬品名・投薬量・時間を確認している。処方箋にて薬の効果、効能・副作用等を把握できている。症状に変化があれば、医師に相談し、指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立に根菜類や繊維の多い食材を、多く取り入れている。また、乳製品を多めにしたり、水分をしっかりとっている。適度な運動で排便を促す便秘体操を取り入れ、便秘薬に頼らない対応を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは必ず行い、不十分な方は職員が一部介助している。口腔状態を把握し、必要と判断すれば、家族に相談し、訪問歯科で治療や入れ歯の修理・調整・作成を依頼している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成をしている。食事摂取量は毎食後記録し、摂取量を確認、個々に対応している。水分を摂りたがらない方は、十分な水分量が確保できるように、ゼリーを作り、食べてもらうように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独自の『感染症マニュアル』を作成している。定期的な勉強会で感染症の知識を習得し、職員全員が正しい知識を持ち、共通の認識で感染防止に努めている。インフルエンザの予防接種は、入居者、職員全員が接種している。また、職員の出勤時、外出からの帰宅時や外部の面会者は、手指消毒、手洗いに努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾等は、毎日洗浄消毒を行っている。『清潔』『迅速』『加熱、冷却』をポイントに、職員、入居者の手洗いの励行を重要視している。食材は、翌日一日分が前日に市場から届き、常に新鮮なものを提供している。『食事管理マニュアル』の「キッチン衛生管理」「食中毒防止対策」に沿って、正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が訪ねてきやすいように玄関扉をオープンにしたり、夏場は網戸にして出入りがしやすいようにしている。玄関周辺は明るい雰囲気にするため、花を育て、利用者が手入れをし、近所の方が声をかけやすい雰囲気づくりに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインド、天窓にレースカーテンを張る等、日差しが柔らかくなる配慮をしている。夏場は簾をかけ、強い日差しを避け、季節感を出す工夫をしている。季節の花々を一緒に生けたり、テレビの音量も個々に応じて調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル以外に数個のソファを置き、仲のよい方と談話したり、一人でくつろげるスペースを作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた環境を活かして、屋外に出かける時間が増えるよう常に考えている。自然の中で、季節の風を肌で感じたり、花や木々の緑を見て、気持ちが晴れ、心が癒されることを、一緒に暮らしている入居者と職員が共に感じ、共に喜びをわかち合いたい。また、散歩をすることで身体を適度に動かし、筋力を保ち、いつまでも元気で暮らせるように支援している。理念に掲げている『やさしい』を念頭に、常に笑顔が絶えないホームであるよう取り組んでいる。